

実践力のある保育者の育成における短期大学の役割

前 徳 明 子・高 橋 美 枝

The Role of Junior College for Bringing up to a Practical Nursery Teacher and a Practical Kindergarten Teacher

MAETOKU Akiko, TAKAHASHI Mie

キーワード：実践力、幼稚園教諭・保育士・保育教諭育成、学士課程教育

その中から今後の課題を明確にする必要がある。

はじめに

埼玉東萌短期大学（以下、本学）は幼児保育学科単科の短期大学であり、必要な授業科目の履修、単位修得により、卒業と同時に幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を取得することができる。卒業生の就職先は保育所、幼稚園、幼・保連携型認定こども園、保育所以外の社会福祉施設が合計96%を占めており（平成28年度卒業生）、ほとんどの学生が本学卒業後保育者として巣立っている。卒業生が保育・幼児教育の現場に着任する際に、新任保育者段階としての優れた実践力のある保育者としてスタートを切ることができるように、いかに育成していくかということが、本学が保育者養成校として求められている使命といえる。

また、知識基盤社会、高度情報化社会、生涯学習社会として特徴づけられる変化の激しい21世紀社会の動向に対応できるためには、学士課程教育を担う短期大学として諸能力の育成が求められており、それらの能力と実践力のある保育者にふさわしい資質、能力との関係を統合的に捉え、2年間の短期大学教育を構築していくことが必要である。

このように、学士課程教育に求められる諸能力と保育者にふさわしい資質、能力との関係を統合的に捉えるためには、これまでの文献を概観し、

目的

学士課程教育に求められる諸能力と保育者にふさわしい資質、能力を統合的に概観することにより、実践力のある保育者育成において必要とされる能力、資質とその育成における短期大学の役割を明らかにすることを本研究の目的とする。

保育者に求められる資質、能力

まず、幼稚園教諭、教員（幼稚園教諭を含む）、保育士に求められる資質、能力について、調査協力者会議の報告、教育職員養成審議会や中央教育審議会の答申、保育士養成校の研究者の研究成果から概観する。

1. 「幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—」（幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告書、平成14年6月24日）¹⁾ にみる保育者に求められる資質、能力

本報告書では「幼稚園教員の資質の向上は、幼稚園教育の充実のために必要不可欠なことではあるが、これまで、教員全体の資質向上の中に含めて論ぜられることはあったものの、特に幼稚園教員についてのみ本格的に議論されたことはなかった」として、幼稚園教員の資質向上に関する調査

研究を報告している。

幼稚園教員の資質を向上させるための手がかりとして、幼稚園教員に求められる専門性のうち以下の8点が重要であると述べられている。

①幼児理解・総合的に指導する力

「幼児の発達段階や発達過程を、その内面から理解し、生活の中で幼児が示す発見の喜びや達成感を共感をもって受け入れる」幼児理解が重要であることを指摘し、「幼児の総合的な発達を促すため、主体性を引き出しつつ、遊びを通して総合的に指導する」専門性が必要であるとしている。

②具体的に保育を構想する力、実践力

①の力を発揮するためには、「一人一人の発達段階と個別の状況に応じて、計画的に、多様な生活体験、自然体験の機会や異年齢交流、交流保育など、具体的に保育を構想し、実践する力」が必要であるとし、教員および教員志望者が自らの豊かな体験を積極的に積むことが望まれるとしている。

③得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性

幼稚園教諭は「それぞれの得意分野を有していることが求められる」と指摘している。この得意分野は、幼児の興味を引き出し、豊かな活動につながるものであり、「教員にとって得意分野の育成は、幼児を理解し、総合的に指導する力を高めることにも通じると考えられる」と述べられている。さらに、教員集団の一員として協働関係を構築することで、「園全体として教育活動を展開していくことが求められている」との期待が示されている。

④特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力

とりわけ三歳児では、「家庭での経験の差や個人差が大きい」こと、「初めての集団生活の場」であることから、発達の側面から一人ひとりへの対応が必要であることを指摘した上で、障害のある幼児や外国籍の幼児へ対応する力を挙げている。

⑤小学校や保育所との連携を推進する力

「幼児期から児童期への移行を円滑にし、一貫した流れを作るため」、教員間、幼児・児童間、保護者間の交流を進めるための実行力、企画力などが求められるとともに、幼稚園と保育所の相互交流や、幼稚園教諭と保育士の合同研修などを踏まえた能力の発揮が必要であることが指摘されている。

⑥保護者及び地域社会との関係を構築する力

幼稚園が地域の幼児教育のセンターとしての機能を発揮し、子育て支援活動を展開することが求められている中で、カウンセリングマインドをもち、保護者の悩みを受け止め、円滑にコミュニケーションをとることが示されている。園長等は幼稚園・家庭・地域社会の関係を深めるために、情報収集・発信能力、対外的交渉力を発揮した地域貢献、地域のさまざまな力を園に導入できる関係構築についても求められていることが指摘されている。

⑦園長など管理職が発揮するリーダーシップ

園長が担う責任の大きさとリーダーシップについて述べられている。

⑧人権に対する理解

幼児が集団生活を初めて経験する場として、教員は人権についての正確な理解に基づき、幼児が互いを尊重し、社会の基本的なルールが存在に気付き、それに従った行動ができる素地を身につけるよう指導する力が求められている。

報告書ではさらに、幼稚園教員の養成・採用・現職の各段階における課題と展望について報告している。

養成段階においては、「幼児の総合的な発達を促すため、幼児理解に基づき、遊びを通じて総合的に指導する」幼稚園教員の基盤的な専門性を養成することが、まず取り組むべき重要なこととし、その際に、教員が具体的に保育を構想し、実践する力の基盤を形成することが求められるとしている。社会のさまざまな変化の中、柔軟性やたくましさを備えた教員になることが求められ、学生の自主的活動を奨励し、多様な体験を得る機会を増やすことが望ましいとされている。さらに、採用

されて間もない教員の中に「実践力の基礎に欠けた」者が散見されるとし、「幼稚園教員という職業のイメージをつかみ、理論と実践とを結び付ける機会や、教員志望者自身の豊かな生活体験が欠けている」点を課題としている。

また、教職経験に応じた研修の充実について述べたなかで、新任教員・若手教員に求められる課題として「幼児理解や保育に必要な基本的知識及び技能を高めるとともに、他の教職員や保護者とのコミュニケーション能力を修得することが求められる」とし、さらに、「各教員の持ち味や特技を活かして、得意分野を育成していくことも求められる」と述べ、研修の必要性が高いが、一方、幼児とともに過ごすことが深い幼児理解につながる意義に触れ、実践を研修の素材として取り入れる工夫の必要性が示されている。

このように、幼稚園教諭には多様な能力が求められる中、養成段階ではまず教員として子どもたちを理解し、保育を実践できる力が求められている。さらに、実践の中で社会的な変化に対応できる柔軟性、たくましさ、教職員や保護者とのコミュニケーション能力が必要とされ、それぞれの得意分野を活かして成長していくことのできる幼稚園教諭が求められているといえる。

2. 「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」(教育職員養成審議会第一次答申、平成9年7月28日)²⁾ にみる教員に求められる資質、能力

本答申では幼稚園教諭を含めた教員に求められる資質、能力について検討し、教員養成カリキュラムの改善について提案されている。教員に求められる資質、能力では、「いつの時代も教員に求められる資質能力」、「今後特に教員に求められる資質能力」、「得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性」の3つの観点から検討されている。

①「いつの時代にも教員に求められる資質能力」

本答申では、「教員の資質能力の向上方策等について」(教育職員養成審議会答申、昭和62年12月18日)の記述をもとに検討し、「教育

者としての使命感」、「人間の成長・発達についての深い理解」、「幼児・児童・生徒に対する教育的愛情」、「教科等に関する専門的知識」、「広く豊かな教養」、「これらを基盤とした実践的指導力」はいつの時代にあっても一般的に求められるものであるとしている。

②「今後特に教員に求められる具体的資質能力」

①に加えて、変化の激しい時代にあって、子どもたちの生きる力を育む教育を授けることが教員には期待され、次のi～iiiの資質能力が求められるとしている。

i 地球的視野に立って行動するための資質能力

「地球、国家、人間等に関する適切な理解」、「豊かな人間性」、「国際社会で必要とされる基本的資質能力」

ii 変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力

「課題解決能力等に関わるもの」、「人間関係に関わるもの」「社会の変化に適応するための知識及び技能」

iii 教員の職務から必然的に求められる資質能力

「幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解」、「教職に対する愛着、誇り、一体感」、「教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度」

③「得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性」

また、本答申では「多様な資質能力を持つ個性豊かな人材によって構成される教員集団が連携・協働する」ことの意義や教員一人ひとりの資質能力は「決して固定的なものでなく、変化し、成長が可能」であることを踏まえて、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、「各人の得意分野づくりや個性の伸長」を図ることが大切と結論付けている。

さらに、教職課程の教育内容を改善するための基本的な視点の中で、教員は「教職という専門的

職業に従事する社会人」であり、教員には「優れた資質能力を備えた社会人」であることが求められていることが確認されている。

このように、従来から教員に求められていた教育者としての使命感や子どもへの愛情、成長・発達の理解と教科等の専門的な知識、指導力、そして広く豊かな教養に加えて、本答申においても、社会の変化に対応する力がさまざまな形で求められていることがわかる。しかし、初めから一人の個人がすべての能力を身につけていることが必要ということではなく、成長、向上していく力、得意分野を活かして協働していく力が求められている。

3. 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(中央教育審議会答申、平成18年7月11日)³⁾にみる教員に求められる資質、能力

本答申は、変化の激しい時代だからこそ「教員には、不断に最新の専門的知識や指導技術等を身に付けていくことが重要」であることを指摘し、「学びの精神」がこれまで以上に強く求められていると述べたうえで、教員に求められる資質能力について、「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」(前述)に示された「いつの時代も教員に求められる資質能力」、「今後特に教員に求められる具体的資質能力」、「得意分野を持つ個性豊かな教員の必要性」の内容を紹介している。加えて「新しい時代の義務教育を創造する」(中央教育審議会答申、平成17年10月26日)⁴⁾における優れた教師の条件について、大きく集約すると以下の3つの要素が重要であると説明している。

①教職に対する強い情熱

教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感など。

②教育の専門家としての確かな力量

子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈の力など。

③総合的な人間力

豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していくこと。

このように、それまでの答申において示された資質能力を紹介し、今後もこれらの資質能力を尊重していくことが適当であり、変化の激しい時代だからこそ、変化に適切に対応した教育活動を行っていく上で、これらの資質能力を確実に身に付けることの重要性が高まっていることが示されている。

4. 「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(中央教育審議会答申、平成24年8月28日)⁵⁾にみる教員に求められる資質、能力

本答申ではグローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっている中で、学校教育に求められる人材育成像に変化が生じ、21世紀を生き抜くための力の育成のため、これからの学校には「基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力などの育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力の育成等」が必要とされることを明らかにしている。

このような学びを支えるために、これからの教員には次のような資質能力が必要であると整理し、「これらは、それぞれ独立して存在するのではなく、省察する中で相互に関連し合いながら形成される」ことに留意が必要であるとしている。

①教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)

②専門職としての高度な知識・技能

i 教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)

ii 新たな学びを展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて

思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)

③総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力)

さらに、取り組むべき課題の中で、「学び続ける教員像」、「教員養成の高度化」の必要性を挙げている。また、「初任者が実践的指導力やコミュニケーション力、チームで対応する力など教員としての基礎的な力を十分に身に付けていない」などが指摘されていることから、教員養成段階において、教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を育成するなど何らかの対応が求められているとしている。

5. 「これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教育育成コミュニティの構築に向けて～」(中央教育審議会答申、平成27年12月21日)⁶⁾にみる教員に求められる資質、能力

本答申では、教員として備えるべき不易の資質能力である、「使命感や責任感、教育的愛情、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的な人間力、コミュニケーション能力」などは引き続き教員に求められるとした上で、今後、改めて教員が高度専門職業人として認識されるために、学び続ける教員像の確立が強く求められるとしている。このため、教員には「自律的に学ぶ姿勢」、「時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を、生涯にわたって高めていくことができる力」が必要とされると述べている。

また、変化の激しい社会を生き抜ける人材を育成していくために、「情報を適切に収集し、選択し、活用する能力」や「知識を有機的に結びつけ構造化する力」が求められ、「これからの時代に生きる子供たちをどう育成するべきかについての目標を組織として共有し、その育成のために確固

たる信念をもって取り組んでいく姿勢」も必要とされる。

さらに、学校を取り巻く多種多様な課題に対応できる力を高めていくのみならず、「チーム学校」の考え方の下、「学校作りのチームの一員として組織的・協働的に諸課題の解決のために取り組む専門的な力」の醸成が求められる。

6. 「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」(保育士養成課程等検討会、平成22年3月24日)⁷⁾にみる保育士に求められる資質、能力

平成21年4月の保育所保育指針の改正を受けて、全国保育士養成協議会は保育士養成課程等検討会を設置し、保育士養成課程の見直しを行った。本報告書では保育士養成課程等における今後の検討課題の「保育の専門性の構築と保育士のキャリアアップ」の中で、これからの保育士に必要とされる資質、能力、専門性に触れている。

「保育士が保育現場で直面する多様な課題に適切に対応し、子どもの保育と保護者支援を確実に担っていくためには、より高い専門性が求められる。」とし、専門性の伸長が必要なことが述べられている。さらに、世界の潮流として、保育や幼児教育を担う者の質の向上やその評価に関心が高まっているとし、特に「遊びや環境を通して子どもの学びを促し、深めていくこと」、「子どもを観察するための知識や技術」、「保育の環境を構成すること」についての専門性等を持つことが重要としている。

本答申においても、教員が実に多様な資質、能力を社会的に要請されていることがわかる。そのことを「高度専門職業人」として明確に位置付けている。変化の激しい社会に対応し、生き抜ける子どもたちを教育していく教員には、専門職業人として自らも成長し続けていく姿勢が求められているとともに、組織的・協働的に諸課題を解決する能力が、専門的な力として位置づけられていることは興味深い。

7. 指定保育士養成施設の研究者による保育士の資質、能力に関する研究

保育士に対する社会的な期待が高まるなか、指定保育士養成施設の教員、研究者もさまざまな保育士の資質、能力に関する研究を発表している。

大津泰子(2010)⁸⁾は保育士養成をめぐるカリキュラム改定や保育関連の法制度の改定などの動向から、保育士の専門性についてまとめている。大津は保育所、託児所、学童保育、児童養護施設などのほかに、医療の分野でも保育士が求められており、「保育需要の増大、深化・多様化などより、それに対応できる高い専門性を持つ保育士が求められている。」と述べている。

江田美代子(2007)⁹⁾は、保育所(園)長、主任保育士、保育科学生がどのように資質能力を考えているかを質問紙により調査している。さらに、「保育所保育指針」の概要と調査結果とを検討し、保育士に求められる資質能力を「子どもの生活を総合的にコーディネートする力」、「子どもの育ちを、五つの観点『健康 人間関係 環境 言葉 表現』等から観察する力」、「子どもの心にもっと踏み込み、コミュニケーションをとる力」の3点にまとめている。そして、三番目の「子どもの心にもっと踏み込み、コミュニケーションをとる力」を構成する力を「子どもと話す力」、「子どもの訴えを聴く力」、「子どもの悩みを考える力」、「子どもたちの意見をまとめる力」、「保育士の思いや願いを伝える力」、「毎日の保育を記録する力」等としている。

松本香奈ら(2017)¹⁰⁾は初等教育学専攻で取り組んでいるミュージカル活動において、保育士・幼稚園教諭としての資質・能力が学生にどれだけ身に付いたかを明らかにするため、アンケート調査を実施した。この研究ではミュージカル活動への取り組みを通して、「自分の行動への責任」、「自主的な行動」、「臨機応変な対応」などの資質・能力が向上したという結果が得られているとしている。

このように、指定保育士養成施設の教員、研究者による研究では、保育士として子どもと向き合

える点を、資質、能力として大きく位置付けていることがわかる。

学士課程に期待される教育

次に、学士課程教育に期待される教育について概観する。

1. 新学力観の3つの要素と学士課程教育に期待される教育

平成20年3月31日に改正された学校教育法では、「基礎的な知識及び技能」を習得させるとともに、これらを活用し課題を解決するために必要な「思考力、判断力、表現力その他の能力」をはぐくみ、「主体的な学習に取り組む態度」を養うことに、特に意を用いなければならないと小学校について規定し、中学校、高等学校においてもそれを準用するとしている。そして、大学入学者選抜においても、以下の三つの要素のそれぞれを把握するように十分留意することが要請されている(文部科学省, 2016)¹¹⁾。

- ①基礎的・基本的な知識・技能
- ②知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

このように、新学力の3つの要素が高等学校までの教育において重視されており、学士課程教育を担う短期大学においては、この3つの要素をよりより伸長させ、変化の激しい社会の中で成長し続けていくことをできる人材を、社会に輩出していくことが求められる。

2. 「学士課程教育の構築に向けて」(中央教育審議会答申、平成20年12月24日)¹²⁾にみる学士課程教育に期待される教育

本答申では、「国として、学士課程で育成する21世紀型市民の内容(日本の大学が授与する学士が保証する能力の内容)に関する参考指針」と

して、以下の内容の「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」が示されている。

①知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- i 多文化・異文化に関する知識の理解
- ii 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

②汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- i コミュニケーション・スキル
日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- ii 数量的スキル
自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
- iii 情報リテラシー
情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- iv 論理的思考力
情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
- v 問題解決力
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

③態度・志向性

- i 自己管理力
自らを律して行動できる。
- ii チームワーク、リーダーシップ
他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- iii 倫理観

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

iv 市民としての社会的責任

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

v 生涯学習力

卒業後も自律・自立して学習できる。

④統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

このように、21世紀型市民として生きていく大学生に専攻の違いがあるものの、共通して培っていく学士力として、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・志向性」、「統合的な学習経験と創造的思考力」が挙げられている。「知識・理解」について、知識体系の意味と自己の存在を関連付けて理解する、という点は興味深い。また、「汎用的技能」に挙げられている技能は、新学力観の「思考力、判断力、表現力その他の能力」と深く結びついた技能であるということが出来る。さらに、「態度・志向性」に挙げられている学士力は、新学力観の「主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度」を発展させた諸能力であると考えられる。そして、学士課程では、これまでに獲得した知識・技能・態度等を統合的に活用する力、そしてそれを自ら立てた課題に適用し、課題を解決する創造的な思考力を育てていくことが求められている。

3. 「提言 21世紀の教養と教養教育」（日本学術会議 日本の展望委員会 知の創造分科会 平成22年4月5日）¹³⁾ にみる学士課程教育に期待される教育

本提言は「現代の時代状況・問題状況、とりわけグローバル化する情報知識社会（「知識基盤社会」）および大学教育の大衆化と生涯学習社会の進展によって特徴づけられる21世紀社会の諸問題・諸課題を踏まえ、豊かな市民社会と持続的

な経済社会の展開およびそれを支える『知の創造』の基盤となる教養として何が重要か、その形成という点で、大学教育、とりわけ教養教育に期待されているものは何か」という問題意識のもとにまとめられたものである。そして、21世紀に期待される教養、大学教育を通じて育むことが期待されている教養は、現代世界が経験している諸変化の特性を理解し、突きつけられている問題や課題について考え探究し、それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智慧・能力であるとし、それを「学問知、技法知、実践知という三つの知と市民的教養を核とするもの」として捉えている。

ここで挙げられている学問知は、学問・研究の成果としての知の総体であり、その学習を通じて形成される知である。錯綜する現実や言説を分析的・批判的に検討・考察し、同時に諸問題を自分に関わる問題として考えることで、自分の生き方や考え方を自制する知でもある。

技法知は、メディアの活用、さまざまな情報・資料の編集、数量的推論、自国語・外国語、学術的な文章作成能力、言語的・非言語的な表現能力・コミュニケーション能力などを構成要素とし、学問知と実践知の学習・形成および活用の基礎となるとされている。

実践知は、日常のさまざまな場面で実際に活用・発揮（実践）され、市民的・社会的・職業的活動に参加・協働し、共感・連帯し、同時に自らの在り方・生き方・振る舞い方を自制し調整していく知とされている。

「現代の大学には、これらの三カテゴリーの知を豊かなものとして育むこと、そして、そのための豊かな学びの機会と諸活動の場を提供することが期待されている」と述べている。さらに、「市民的教養」の再構築と形成の重要性に注目する必要があるとしている。

このように、大学教育においては、学問知、技法知、実践知を核とする教育を育むことが期待されている。この3つの知は相互に密接に関係している。技法知は、学問知と実践知の学習・形成お

よび活用の基礎となる。また、学問知は実践知を発揮する際に活かされ、実践知を発揮して市民的・社会的・職業的活動に参加・協働する中で、学問知をさらに伸ばさせていくことの意義を発見することができる。

考察

1. 実践力のある保育者とは

IT技術の発達に伴い、社会のさまざまな業種、職種において、実践力が求められるようになってきている。つまり、IT技術が人に代わって行うことができる業務が増加する中で、専門知識が必要であっても、作業工程が変わらない仕事からIT化が進んでおり、この動向は今後さらに増大していくと考えられる。その中で、人間が必要とされる仕事は、状況判断が必要なもの、より広い領域を跨って対応が必要なものとなり、このことが広い分野で実践力が求められている状況の背景にあるといえる。

保育・幼児教育の現場は、例えば「いざこざを体験する中から、社会性が育つ」というように、IT技術が最も苦手としている分野に対応している場であるといえる。その現場に求められる力を有している保育者を、本稿においては実践力のある保育者としている。

つまり、保育・幼児教育の現場の中で、優れた保育・教育実践を行うことができる保育者を、実践力がある保育者と定義して論考を進めていく。

2. 保育者に求められる資質、能力と学士課程に期待される教育との関係

本稿において、学士課程に期待される教育について概観する際に用いた3つの文書のうち、「学士課程教育の構築に向けて」（中央教育審議会答申、前述）が中核的文書である。小学校から高等学校までの教育の軸となる新学力観はその基盤となると考えられ、市民的教養の核となる「学問知、技法知、実践知」は「学士課程教育の構築に向けて」に挙げられた内容と関係が深い。このことか

ら、保育者に求められる資質、能力と「学士課程教育の構築に向けて」に挙げられた「学士力」との関係を検討する。

保育者に求められる資質、能力と「学士力」と

の関係を図1にまとめた。また、保育者に求められる資質、能力の項の7に挙げた指定保育士養成施設の研究者による保育士の資質、能力に関する研究については、この図には含めず別に考察する。

図1 学士力と保育者に求められる資質、能力

学士力	幼稚園教諭に求められる専門性*1	教員に求められる資質、能力*2	教員に求められる資質、能力*3	教員に求められる資質、能力*4	教員に求められる資質、能力*5	保育士に求められる資質、能力*6
知識・理解	幼児理解・総合的に指導する力 具体的に保育を構想する力、実践力 特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力	人間の成長・発達についての深い理解 教科等に関する専門的知識 広く豊かな教養 社会の変化に適応するための知識及び技能 幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解 教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度		教科や教職に関する高度な知識・技能	教科や教職に関する専門的知識	子どもを観察するための知識や技術
汎用的技能						
コミュニケーション・スキル (日本語、外国語 読み、書き、話す)		国際社会で必要とされる基本的資質能力	対人関係能力 コミュニケーション能力	コミュニケーション力	コミュニケーション能力	
数量的スキル						
情報リテラシー					情報を適切に収集し、選択し、活用する能力	
論理的思考力						
問題解決力	総合的に指導する力	課題解決能力等に関わるもの			学校作りのチームの一員として組織的・協働的に諸課題の解決のために取り組む専門的な力	
態度・志向性						
自己管理能力						
チームワーク・リーダーシップ	園長など管理職が発揮するリーダーシップ 教員集団の一員としての協働性 保護者及び地域社会との関係を構築する力	人間関係に関わるもの 多様な資質能力を持つ個性豊かな人材によって構成される教員集団が連携・協働する	対人関係能力 コミュニケーション能力 教職員全体と同僚として協力していくこと	コミュニケーション力 チームで対応する力 地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力	コミュニケーション能力 これからの時代に生きる子供たちをどう育成すべきかについての目標を組織として共有し、その育成のために確固たる信念をもって取り組んでいく姿勢 学校作りのチームの一員として組織的・協働的に諸課題の解決のために取り組む専門的な力	
倫理観	人権に対する理解					
市民としての社会的責任	人権に対する理解			教職に対する責任感	使命感や責任感	
生涯学習力	得意分野の育成	各人の得意分野づくりや個性の伸長		探究力 教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力	自律的に学ぶ姿勢 時代の変化や自らのキャリアステージに求められる資質能力を、生涯にわたって高めていくことのできる力	

教職課程、保育課程に求められる学士力

統合的学習経験 と創造的思考力	具体的に保育を構想する力、実践力				実践的指導力 知識を有機的に結び つけ構造化する力		
	幼児理解・総合的に指導する力 具体的に保育を構想する力、実践力 特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力 保護者及び地域社会との関係を構築する力	教育者としての使命感 実践的指導力 教職に対する愛着、誇り、一体感	教職に対する強い情熱 教育の専門家としての確かな力量	教職に対する責任感 新たな学びを展開できる実践的指導力	実践的指導力	遊びや環境を通して子どもの学びを促し、深めていくこと 子どもを観察するための知識や技術 保育の環境を構成すること	保育者としての専門的 資質、能力
		幼児・児童・生徒に対する教育的愛情 地球、国家、人間等に関する適切な理解 豊かな人間性	総合的な人間力 豊かな人間性や社会性	教育的愛情 総合的な人間力 豊かな人間性や社会性	教育的愛情 総合的な人間力		保育者としての 人間力

- ※1 「幼稚園教員の資質向上について」¹⁾における幼稚園教員に求められる専門性
- ※2 「新たな時代に向けた教員養成の改善方策について」²⁾における教員に求められる資質、能力
- ※3 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」³⁾における教員に求められる資質、能力
- ※4 「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」⁵⁾における教員に求められる資質、能力
- ※5 「これからの学校教育を担う教員の資質向上について」⁶⁾における教員に求められる資質、能力
- ※6 「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」⁷⁾における保育士に求められる資質、能力

学士力は「各専攻課程を通じて培う学士力」とそもそも定義づけられており、保育、幼児教育の課程、保育課程という性格を有した学士力であると捉えることができる。

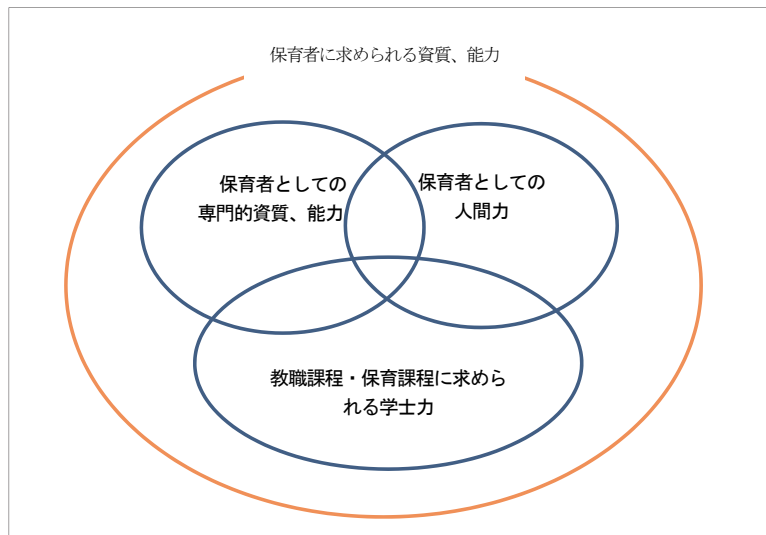
図1のように整理してみると、保育者に求められる資質、能力のかなりの部分が「保育課程、教職課程に求められる学士力」ととらえられる。一方、これに加えて、「保育者としての専門的資質、能力」及び「保育者としての人間力」が求められていることが明らかである。また、この3つの力は、明確に区分しきれない重なりを持ったもので

あることも確認できる。

この表に載せなかった指定保育士養成施設の研究による保育士の資質、能力に関する研究では、図1に示された資質、能力についてより具体的に示した内容であると捉えられる。大枠を把握する表には掲載しなかったが、各養成校の教育内容を検討していく上で、参考となる点を多く含んでいる。

学士課程教育に求められる学士力と保育者に求められる資質、能力との関係を、図2に示した。

図2 学士課程に求められる学士力と保育者に求められる資質、能力との関係



3. 短期大学の課程で、期待に応えるための観点

このように、保育者に求められる資質・能力、学士課程に期待される教育は大きく重なる部分を持つと同時に、多岐にわたっているといえることができる。わずか2年間の短期大学の課程において、この期待に応えていくことは困難である。しかし、同時にほとんどの学生が卒業後、保育所、幼稚園、幼・保連携型認定こども園、保育所以外の社会福祉施設に就職し、保育者となっていくことからすると、卒業後の保育者としての実践の質を向上させていくことと、短期大学での学修が深く結びついていくことが重要であると言える。そのためには、次のような観点が重要になる。

第1は、「学び続ける」力を育てるという観点である。社会人として、保育者としてのスタートに立てる力を身につけるとともに、それを伸ばさせていくことへの意欲、実践を振り返りそれを省察し、自己の課題を発見して成長し続ける力を育てていくことが必要となる。

第2は、他者と協働して取り組むことのできるコミュニケーション能力を育てるという観点である。保育者の仕事は多様な側面を持ち、またさまざまな対象への対応や支援が求められる。その中で、すべてに対してオールマイティに高い能力を持ってカバーすることは難しい。自分自身の得意を活かし、他者と協働して取り組むことが益々重要となる。

また、2年間の短期大学の学生生活の中で、保育者に求められる資質・能力は、授業のみで獲得されるものではない。授業を中心とした学修のほかに、実習やボランティアで保育所、児童福祉施設、幼稚園などの場で、子どもたちや利用者、職員と接し、その中での日々の実習を体験し記録し振り返り、その中から学ぶものは非常に大きい。さらに、サークルや委員会、学友会の活動、大学祭などの活動を運営する中で、身につけていくことも多くある。また、就職活動やキャリアプランニングに取り組む中で成長する部分も大きい。第3の観点として、このようにさまざまな活動の中で実践力のある保育者へと成長していくことから、

さまざまな領域での成長を学生自身が把握することができるようなシステムを構築することが必要となる。

今後の課題

本研究においては、学士課程教育に求められる諸能力と、保育者にふさわしい資質、能力を概観することで、実践力のある保育者育成において必要とされる資質と、その育成における短期大学の役割の検討を行った。

一方、保育者としての実践力は、卒業後に保育、幼児教育の現場に出てから、実践や研修の中で磨かれていくといえる。齋藤正典ら(2011)¹⁴⁾は保育士への保育士自身が獲得してきたと意識する資質、能力と、園長・主任保育士が期待する資質、能力を、「社会性」、「姿勢・意欲」、「コミュニケーション」、「保育実践」、「子育て支援」、「子どもの人権擁護」、「虐待の予防・防止」の観点から対比させている。その際、「新人保育士」、「中堅保育士」、「ベテラン保育士」の回答内容を比較して検討している。保育士自身の意識と園長・主任保育士の期待の間に違いがみられ、特に経験年数が大きくなるほど、差が大きくなっていく傾向が示されており興味深い。

齋藤らの研究では保育所勤務の保育士のみを対象としているが、施設勤務の保育士、幼稚園教諭、保育教諭、養成校の学生と比較検討することで、保育者として実践力を育てていくプロセスの全体を明らかにしていくことが今後の課題である。

引用文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課運営支援室(2002) 幼稚園教員の資質向上について—自ら学ぶ幼稚園教員のために—(報告) 幼稚園教員の資質向上に関する調査協力者会議
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/019/toushin/020602.htm

- (2017年11月14日閲覧)
- 2) 文部科学省(1997) 新たな時代に向けた教員養成の改善方策について 教育職員養成審議会 第1次答申
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/old_chukyo/old_shokuin_index/toushin/1315369.htm (2017年11月14日閲覧)
- 3) 文部科学省(2006) 今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申) 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212707.htm (2017年11月15日閲覧)
- 4) 文部科学省(2005) 新しい時代の義務教育を創造する(答申) 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05102601/all.pdf (2017年11月15日閲覧)
- 5) 文部科学省(2012) 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申) 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325092.htm (2017年11月15日閲覧)
- 6) 文部科学省(2015) これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申) 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm (2017年11月15日閲覧)
- 7) 保育士養成課程等検討会(2010) 保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0324-6a.pdf> (2017年11月16日閲覧)
- 8) 大津泰子(2010) 保育士の専門性を高めるための課題—保育士養成の動向から— 近畿大学九州短期大学研究紀要, 40, pp13-46, 近畿大学九州短期大学編
- 9) 江田美代子(2007) 保育士に求められる資質能力に関する調査研究 宮崎女子短期大学紀要, 34, pp31-46.
- 10) 松本香奈・位田かつ代・森洋子・土井のぞみ・齊藤陽子(2017) 保育士・幼稚園教諭に求められる資質・能力の向上のための取り組み—継続的な活動による学生の成長—, 岐阜女子大学紀要, 46, pp61-74.
- 11) 文部科学省(2016) 平成29年度大学入学選抜実施要項 文部科学省高等教育局長通知.
- 12) 文部科学省(1998) 学士課程教育の構築に向けて(答申) 中央教育審議会
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm (2017年11月5日閲覧)
- 13) 日本学術会議 日本の展望委員会 知の創造分科会(2000) 提言 21世紀の教養と教養教育
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-tsoukai-4.pdf> (2017年11月5日閲覧)
- 14) 齋藤正典・尾崎雅子(2011) 経験年数別の保育士に求められる資質・能力に関する研究 子ども教育研究, 3, pp17-32.

前徳明子 (埼玉東萌短期大学准教授)

高橋美枝 (埼玉東萌短期大学教授)